

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793400039		
法人名	株式会社スリーピース		
事業所名	グループホームとことん		
所在地	沖縄県島尻郡与那原町字板良敷161-5		
自己評価作成日	平成 31年	3月 25日(月)	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=4793400021-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 31年 3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりに合わせた適切なケアを行うため、職員が「個別介護計画書」を作成し、実施から評価までを行っている。 ・屋外での活動が多く、楽しみながら「動く」事で身体機能低下の防止を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新規の事業所で、利用者一人ひとりの生活リズムに合わせたケア(好きな事、役割、入浴時間や外出等)を計画に反映し、時系列で実施記録している。職員が支援の中で利用者の話した言葉や思いをセンター方式のC-1-2シートを活用して本人本位の支援に取り組み、おひとりさまツアーでは、利用者の意向に添う事でコミュニケーション、信頼関係を築いている。戸外活動が多く、出かける、動くことで季節を感じたり、気分転換や身体機能維持、低下防止を図っている。現代の機器、SNSやDVDを活用しての利用者家族に個々の状況や活動の様子を、日常的に伝え家族と連携している。又、職員間で情報交換している。居室入口に利用者手作りのポストを設置して、利用者宛の葉書等は手渡しでなくポストへと、一人ひとりの尊重とプライバシーに配慮した工夫をしている。3食事業所で調理し利用者も出来る事は参加している。定期的に勉強会を実施、資格取得も積極的に進め、職員の質の向上に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えたスローガンを常に意識し、個々のケア実践に繋げている。	事業所での、ケアや利用者との関わり方、働き方の統一を図るため、上半期・下半期とスローガンを掲げ支援に努めている。スローガンは管理者、職員でつくりあげて掲示し、申し送りやミーティング等で実践に反映されているか確認している。事業所理念は作成されていない。	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、事業所の理念をつくりあげること期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動の情報収集が不十分なため、現時点での活動参加率は低い。	自治会に加入し、自治会長が推進委員で情報交換している。散歩時に挨拶を交わしたり、地域の綱引きの見学に出かけ交流している。町の学童園児が散歩時に立ち寄ったり、合同ハロウィンパーティーでは学童園児がダンスを披露している。専門学生のボランティア、実習生を受け入れ、学生の研鑽の処となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との関わりが乏しく、認知症の理解についての啓発活動は行われていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回開催される運営推進会議において、個別ケアや活動内容の実態を報告しているが、第三者から、今後のサービス向上に繋げる評価についての発言が殆ど頂けていない。	新規事業所で6月から定期的に、利用者、家族、行政、地域代表参加のもと、推進会議は5回開催されている。運営推進会議の要綱は確認できなかった。会議ではパワーポイントを使って、分かりやすいように事業所の実情や事故・ヒヤリハット等も報告している。パワーポイントが議事録となっていて、委員との意見交換等は確認出来ず、報告のみとなっている。	委員に、運営推進会議の意義を伝え、サービス向上に活かせる意見交換と記録の工夫に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場や南部福祉事務所等の担当者と密に連携を図り、解らない事があれば伺いを立て指導を頂いている。	町担当者とは運営推進会議や町主催のチャーがんじゅミーティング等で情報交換し、外部研修の情報提供もある。月3～4回利用者と一緒に窓口訪問し、事業所の実情や空き状況を伝えている。地域防災マップでは、事業所敷地が津波災害の避難場所となっているが、台風24号で地滑りの土砂災害があり、推進会議でも防災対策について、担当課に伝える事を要望し、町その他課とも協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠において、安全対策のため夜間帯は施錠しているが、それ以外の時間帯は開放し、ご利用者には自由に行動して頂いている。	身体的拘束等の適正化のための指針も整備されている。拘束しないケアについて、契約時に家族に説明している。言葉による行動抑制は「どういう言葉がスピーチロックなのか」「利用者の個性によって、長い言葉より短い言葉が理解できる」等の意見もある。その時、その時に応じて対応など、管理者は、職員は勉強会を重ねて理解を深め実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待及び権利擁護について、毎月行われる勉強会の内容に盛り込まれることが多い為、全職員に習得されていると考える。また学んだ成果として、個別ケア実践に反映されていると考える。	虐待防止の徹底について研修も行われ、勉強会でも、折にに触れ話題し理解を深めている。利用者とTV視聴時に虐待についてのニュースにコメントし合う場面もあり職員は虐待防止の徹底に意識を高めている。管理者は職員の疲労やストレス等が無い把握に努め、疲れていると感じたら励ましの言葉を掛けたり、休憩はしっかりとるよう注意喚起している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、毎月行われる勉強会の内容に盛り込まれることが多い為、全職員に習得されていると考える。また学んだ成果として、個別ケア実践に反映されていると考える。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において、時間をかけ利用者及び家族から希望や抱えている精神的負担等を聞き出すことに心掛け、契約及び施設サービス内容を十分に説明し理解と納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質向上に向け、家族や第三者が気軽に意見を投稿できるよう、玄関先に意見箱を設けている。	利用者からは、日々の生活の中やおひとりさまツアーで聴く機会としている。家族からは、運営推進会議やSNS、面会時に声かけ聴いている。意見箱には、感謝の気持ちのみで家族から運営に関する意見は聴かれない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員ミーティングのみならず、何かあれば管理者専用のレターケースに投稿できるよう環境を整えている。また、SNS等を利用した個別での相談窓口も設け、誰でも気軽に発言できるようにしている。	日々の生活の中やミーティング、レターケース、SNS等で職員の意見を聞く機会としている。「プライバシーに配慮の面からトイレ出入口に暖簾をつけては」や「朝食を手作りしては」等、職員の意見の反映に努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度は個々の能力に応じて給与水準等を決定してきたが、次年度からは、職員の士気向上も含めたキャリアパスを制定する予定である。	職員の技術水準や個性を見抜き役割を与えている。職員が自己拡張しているか、入職後定期的に、自己、他己評価を実施している。計画的に事業所内研修の実施や資格取得を積極的に進めている。調査日に2名の職員が介護福祉士合格の知らせが届いた。健康診断も実施している。	

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実際の能力を把握するため、職員に対しプリセプターを導入しており、自己評価、施設評価について自己覚知して頂き研鑽に努めて頂いている。また、外部研修情報を貼り出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域会議、養成校や介護福祉士会などの職能団体を通じて情報交換を行い、サービスの質の向上に向け積極的に活動参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からはもちろんの事だが、家族や本人に関わりのある地域から小さな情報でも拾い上げ、施設と本人との信頼関係を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族から小さな情報でも拾い上げ信頼関係を構築できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上の内容に加え、サービス導入時から状態や状況に応じた支援実施に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に過度介護にならぬよう努め、また共同生活という場を理解して頂けるよう他者と良好な関係が保てるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族と密に連携を図れるよう努め、承諾を得ている家族とはSNSを通じ日頃の利用者の様子を伝える事で、離れて暮らしていても身近に感じて頂けるよう、家族間の関係を良好に保てていると考える。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者において、これまで交流のあった方達とのふれあいや、馴染みのある環境へ訪れる事で、認知症罹患以前の生活に近づけられるよう努めている。	馴染みの美容室を継続して通う方、定期的に週刊誌を買いに出かけ愛読している方もいる。入居前のアパートの大家さんに新年の挨拶に出かける方や住み慣れた地域のスーパーに買い物に出かける、本人の諸手続きには本人も一緒に行政窓口の行く等、継続して支援出来るように努めている。本人をとりまく関係者、家族、友人、利用者同士が教えてくれる等、地域社会との関係性の把握に努めている。	

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いにより、他者との関わりが上手く図れない方に対し、介護職が介入する事でコミュニケーションが円滑に進むよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者の家族から、何かあれば相談に乗れるよう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランとは別に、介護職が作成した個別介護計画書を基に個別ケアを実施している。	殆どの利用者が、主訴の表出は可能で、アセスメントや日々の支援の中やおひとりさまツアー(1対1)で聴いて把握に努めている。センター方式のC-1-2の記録を基にミーティング等で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報、また、これまで関わりのあった他施設からの情報を収集し職員全体で把握するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や身体状態等、日誌や申し送りなどのツールを利用し現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	法人独自の個別介護計画書があり担当職員が記入している。モニタリングは基本的に半年に1回行っている。月1日担当の職員から聞いたり、職員の書いている記録日誌を介護計画にも活かしている。	サービス担当者会議に、利用者、家族も参加して開催され、意向が反映された介護計画で、3か月毎にモニタリングも行われている。利用者の担当職員が、毎月センター方式のC-1-2心身の情報(私の姿と気持ちシート)を活用して、利用者が話したことや職員が気づいたこと、アイデア等を記録し個別介護計画に反映、支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の過ごし方や身体状態等、日誌や申し送りなどのツールを利用し現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを実施するうえで臨機応変に対応できるよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のみならず社会資源を活用する事で楽しみながら心身機能の低下を防止している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にこれまでのかかりつけ医を継続して頂いている。また、そのかかりつけ医と施設との関係を良好に築いていくために、施設の活動を周知している。	本人、家族の希望するかかりつけ医の継続で、受診は家族対応であるが、職員が同行する事もある。受診時には医療機関に、事前に電話で情報提供したり、家族に書面を託し結果は口頭や医療機関より電話で報告を受けている。利用者の状況や対応について相談する等、かかりつけ医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療との連携において、他病院の看護師等と密に連携を図るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師を初め、ソーシャルワーカーとの密な連携を図り、尚且つ環境の変化によって認知症が悪化しないよう、こまめに本人のもとへ訪れるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において、十分に説明できていると考えるが、ターミナルケアにおいては全職員の研鑽が必要である。	事業所は看取りをする方針であるが、現状では、医療関係者との連携が不十分で、実情を契約時に本人、家族に説明し理解を得ている。ターミナルケアについてのマニュアル、家族の休憩する場も整えている。管理者、職員は看取りについて研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的ケアにおいて、急変時の対応に関する内部勉強会は未実施であるが、次年度の勉強会で実施する予定である。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、また日頃から災害時においての体制を職員や地域と連携を図っている。	避難訓練は、昼間想定自主訓練を1回実施しているが課題も多く、地域の協力も得られていない。台風での地滑りによる土砂災害あり、居室窓からの被害を避けるために社用車で建物を囲む、二次災害への対策をし行政へ報告、対策に向けて協力依頼している。あらゆる災害マニュアルも整え、備品等も準備している。	法令で、年2回以上(昼・夜想定)の避難訓練が義務付けられています。火災や今回の土砂災害等、消防署協力の基、利用者、職員が安全に避難できるか検証と訓練、地域の協力に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア実施において利用者の尊厳の保持は当然ではあるが、その利用者が馴染みに合わせ、言葉や対応を行っている。	一人ひとりの気持ちを大切に、言葉かけや対応に努めている。居室入室時には本人に確認やノックして入室している。居室出入口に、本人手作りのポストがあり、本人宛の葉書等手渡ししないでポストに入れ、本人が確認出来るよう工夫している。個人書類等も鍵付きの棚にとプライバシーを確保している。	

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の状況を除き、常日頃から、日常生活において選択すべき事は自己選択し自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、またその人らしい生活に近づけられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の入居前からのその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同上に加え、共同生活の場を理解して頂く事で利用者自ら積極的に協力して頂いている。	3食事業所で調理し、利用者は買い物、食材の下ごしらえ、食器洗い等食事に関する一連の作業に参加している。味見係り。片付け等残存能力が発揮出来るよう支援し、調理好きな利用者は積極的に参加している。職員介助は無く、献立や状態により、刻みやトロミをつける場合は、本人に確認して形態を変更している。職員も利用者と一緒に食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の状態や状況に応じ、定時を設けず摂取できるときに摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼を除き、朝と夜はしっかりと口腔ケアを一部介助にて行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にこれまでの送ってきた生活同様に、排泄障がいがあってもトイレでの排泄行為を促している。	殆どの利用者が自立していて、本人の生活リズムに沿って、排泄チェック表や自己申告で把握している。排泄困難な利用者の支援として、水分摂取量の把握と時間でトイレに促し、拒否した場合はタイミングを図って支援している。夜間はポータブル使用が2名で1名は本人の意向で用を足している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や利用者本人からの自己申告を基に、個々の排便リズムを把握し飲食や運動に工夫を凝らして、予防に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせて入浴時間は定時で設けていない。だが状況に応じ、入浴促しの声掛けは行っている。	曜日や時間を決めてはいないが、19時までは可能で利用者の意向に合わせて支援している。毎日の方や1日に2回入る方もいる。シャワー浴で、本人が出来ないところを支援し見守りで対応している。拒否される場合は、タイミングを図り週2～3は入浴している。急激な温度変化がないように浴室を暖めている。浴場出入口に「ゆ」の暖簾をかけて入浴が楽しめるよう環境づくりをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い日が予想されるなど、就寝前に温かい飲み物を提供したり、マッサージしたり、眠りやすい環境を整えてから、就寝に就いていただいている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報について、全職員がいつでも確認が出来るよう書類を整えている。だが薬に対し、全体的に職員が把握できてはいない。	利用者担当職員が、利用者の薬の内容が把握できるように、担当者がセットしている。服薬支援に関するマニュアルの作成には至っていない。薬剤情報は個別にファイルして分かりやすいようにしている。服薬拒否の場合は薬の目的、用途により次の服薬時に飲ませている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者により、それぞれの役割を持って頂いている。また気分転換の支援においては、ほぼ毎日行われている。		

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期に設けていないが、当施設でのサービス内容の中に「マンツーマン支援」があり、本人の希望に合わせ一日を通して支援活動を行っている。	生活の継続として、利用者のその日の希望にそって、ドライブや買い物、馴染みの場所等にでかけている。支援の中で得た本人の情報を基に、おひとりさまツアーを企画し、マンツーマンの外出支援を行っている。個別、全体と外出する機会は多く、社会資源も活用して全員で初詣や国際通りに出かけている。	
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身が持参しているお金もあるが、ほとんどの利用者が施設に預けている。「利用者のお小遣い」をそれぞれ小口袋に入れ外出時に利用者それぞれに持って頂き買物等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者は自由にやり取りを行っているが、持っていない利用者は介護職が「いつでも電話できますよ」と声掛けを行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにおいて、居心地が良いと思える環境整備は不十分である。	玄関、居間、台所から見守り出来るように2カ所にテーブルを配置している。ソファでゆったり座っている利用者、テレビを見ている利用者、ぬり絵をしている利用者と好きな場所でくつろいでいる。居間から戸外に出る事も出来る。壁には協働の作品が飾られている。	

自己評価および外部評価結果

te

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる環境づくりが不十分であり、課題の一つである。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるモノを配置する事で少しでも安心感を持って頂けたらと工夫に努めている。	ベットとタンスは備え付けで、馴染みの家具や好みの物を持ち込み、導線も考慮して本人、家族と相談しながら一緒に居心地よく過ごせる居室作りをしている。居室には、本人、家族の写真が飾られ家族の話題など職員との会話にも役立っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全とまでは言えない箇所がいくつかあり、ハード面での課題の一つである。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームとことん

目標達成計画

作成日: 2020 年 4 月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		特別な理由はなく、また法人より具体的な事業所理念も提示されることはなかった。これまでは事業所において職員全員で作成したスローガンをもとに、日々のサービス提供に努めていた為、事業所理念を作成する。	法人全体を巻き込んで、グループホームとことんに特化した事業所理念を掲げ、これまでよりもより職員全員の専門職としての意識向上を図りたいと考える。	毎月一回行われる事業所ミーティングにおいて、法人上層部を交え事業所理念の作成に向け実施する。	2ヶ月
2		法令において年2回以上の避難訓練が義務付けられているが、自主訓練のみで消防署協力のもと訓練を実施する事が出来ていなかった。	自主訓練に加え消防署協力の基、適切な対処法を学び、利用者及び職員の安心安全を確保していく。	半年に一度のペースで自主訓練及び消防署協力を要請する。	12ヶ月
3		運営推進会議について毎回実施案内状を家族及び推進員へ送付しているが、家族の参加率が低く、利用者や運営の状況を報告する事が出来ていなかった。また推進員からの意見も少ない。	案内状に加え運営推進会議の意義目的等を伝え家族の参加率を高め、利用者との繋がりを途絶えない様に努める。また、会議中において質疑応答の時間を更に伸ばし、一人ひとりが発言しやすい様、配慮する。	案内状に加え運営推進会議の意義目的、またやむを得ず参加できない場合の委任状を同封する。また会議に向けた家族または推進員からの質問等を事前に受け付ける事にする。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。